

令和6年度新見市地方独立行政法人評価委員会（第2回）議事要旨

日 時 令和6年7月8日（月）13：00～16：40

場 所 新見公立大学 本館2階 会議室A

出席者

評価委員会 岡崎委員長、中西委員、加藤委員

公立大学 公文学長、小田副学長、鹿島事務局長、斎藤学生部長、矢嶋学生部次長
吉川次長、武田課長、上山課長、眞治課長補佐、太田主事

事務局 泉課長、昌谷補佐、津内主任

■要旨

「令和5年度事業報告書」、「令和5年度に係る業務の実績に関する項目別実績報告書」、「令和5年度財務諸表」、「令和5年度決算報告書」、「第3期中期目標期間中間評価に係る実績報告書」の各資料に基づき、公立大学から説明を受けた。

今回の評価委員会では、令和5年度事業実績及び第3期中期目標期間中間評価に係る実績についての大学からの説明にとどめ、次回評価委員会（7月22日（月）13：00から、市役所本庁舎3階第4委員会室）にて評価を審議することとした。

■詳細

【令和5年度事業実績】

I 教育・研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育

1) 教育の内容

委員：実践的な英語力の習得を図ることができたとあるが、具体的にはどのような状況か。

大学：授業の担当教員がネイティブスピーカーで、その先生がいろいろな保育の場面、看護の場面、福祉の場面を想定して、現場でこのような英語ができるという授業を行っている。

委員：学生の修得状況はどうか。

大学：入学時点・出願時点で英語のレベルをみると英検2級・準2級を持っている学生が多く、そのレベルの学生が入っているのは分かるが、その後の測定はできていない。検討している。

委員：能登半島地震の復興ボランティアには何人くらい参加したか。

大学：確認後、次回評価委員会までに回答する。

委員：地域福祉学科の複数の資格取得者について、無資格者の1人は取らなかったのか、取れなかったのか。

大学：確認後、次回評価委員会までに回答する。

委員：保健所での実習が困難だったことに対する反省として対策などはあるか。

大学：コロナに関して、特に地域福祉・幼児の施設は感染対策を必要以上に厳しくしているように感じる。昨年の卒業生はずっとコロナ禍にいたため、対外的なコミュニケーション力が危惧されるという状況が起きていたため対応した。今後もコロナの現状に即した対応を続けていく。

2) 教育の実施体制

委員：IRによる本学教育の特色の把握の部分で、教員と学生の関係性は他の大学よりよく感じるが、学生が田舎から来るからか教員が学生に接する態度が変わってきているからかどちらか。

大学：両方。田舎だからというよりは、ここの大学で学ぼうという時点でスクリーニングがかかっていると思われる。中山間地区の地域共生社会の中で活躍したいという意思を持った学生がここを選んでいくというのが1つある。また、学生と教員との距離が非常に近い。

委員：入試案内などで表に出て、そのような学生が来始めているのか。

大学：特に4年制大学になってから、本学を選ぶときの大きな要素になっていると思う。また、学生参画のFD・SDシステム（教育プログラムと学生支援改善のための意見交換会）のような学生と直接いろいろな意見をぶつけ合うようなことができる大学は少ない。

委員：これは選ばれた学生が何人か参加しているのか。

大学：自由参加。主には学生会のメンバーだが、一般の学生も参加する。

委員：実習・フィールドワークなどにより体験的に学ぶ機会が頻繁にあったと感じている学生の割合が他大学より高いが、カリキュラムに工夫をされているのか。

大学：3学科とも授業の中で地域に出向いて何かをすることがいくつかあり、他大学ではなかなかできない。本学では田舎に立地して、田舎の保育や看護、福祉を学ぶことを実践的にしているため他大学より高い。

委員：課題については、学生からの要望で分かったのか。教員から分かったのか。

大学：学生と教員、両方の意見を集約している。

2 研究

1) 研究の内容

委員：論文や外部資金の獲得は体制が変わってできやすくなったか。

大学：2019年の4年制大学化の時に、審査を通すために業績の高い教員を採用している。その教員や若手教員が多く科研費を取っているのだからそこから上がっている。科学系の研究はある程度短期間で成果が出るが、医療・保健・福祉系はある程度時間がかかる。大学院もできてこれから更にと言う時期である。また、若手研究者や大学院生にも期待している。

2) 研究の実施体制

委員：駅西サテライトの設置でいろいろな研究が検証できるようになったと記入してあるが、地域として駅西以外の開催の要望はあるのか。

大学：駅西を利用されている方にはあまりないと思うが、今まで別の場所で開催していた事業や会議を実施したいなど民間の方からの要望には応えている。

委員：全世代型地域包括ケア研究センターのような医療と福祉の融合の観点から捉えることは全国的には他の大学でも行っているのか。新見はかなり進んでいるのか。

大学：全国約1,720の地方自治体があるが、その中で人口3万人を切るような中山間地区で医療・保健・福祉系の公立大学は新見公立大学しかない。そのため、センターを作ったことは注目され、全国の公立大学の協会などで話題になって取り上げられている。

3 学生の確保及び支援

1) 学生の確保

委員：入試の倍率は、前年・前前年と比べてあまり変わらないか。

大学：前回（令和6年度入学）が一番厳しかった。日本は景気が良いらしく、免許取得系に人気なくなっている。芸術やバイオなど新しい分野が人気で、本学は免許取得系の大学のため不利になっている。また、コロナが収束したため、都会に移動しようとしている。岡山県から本学を受ける受験生も減っている。さらに、高校の総合的な学習の時間ができ、いろいろな職業を体験できるプログラムが高校の授業に入ったため、女性が他の職業に憧れるようになり、ここ3年間、保育士・看護師・介護士は高校生の志望が10%程度下がってきている。この状況は今も続いており、油断はできない。

II 社会貢献に関する目標を達成するために取るべき措置

委員：昨年度の評価委員会で評価を4に上げているが、自己評価を3にしているのはもう少し足りないと思う所があるのか。

大学：地域共生推進センターを中心にまちとつながって良く活動しており、認証評価でも優れている点として評価されているため自己評価3は謙虚すぎると思う。保健所・県民局などとの連携、特に学校との連携ができればと思う。少しずつ前進はしている。

委員：教育支援センターと保幼小との連携の具体的な内容は何か。

大学：確認後、次回評価委員会までに回答する。

委員：夏祭りや土下座祭りに行って、元気が出ると感じた。

委員：みんなの広場に関わっているが、回数を重ねるごとに学生の運営レベルが上がって、上手になってきている。是非続けていってほしい。

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織の改善及び効率化

委員：評価システムを確立して、教員のモチベーションは上がっているか。

大学：1～5の基準を設けており、一番悪い評価の1は2年間1人もおらず、4以上が毎年2割程度おり、年齢関係なく散らばって与えられているためモチベーションは上がっていると思われる。

委員：評価・将来構想委員会の「構想部門」とはどのような動きをする部会か。

大学：新見公立大学の5年後、10年後を考える委員会。教員の中から次の世代、若手の世代が主なメンバーとなり、文教政策を学ぶところから始めている。文部科学省のいろいろな政策をまずは勉

強しないと将来のことを考えられないため始めた。2022年の10月に大学設置基準が変わって、教員のあり方も大きく変わっているため勉強した後、将来のことを考えようとスタートした。

委員：活発な意見が出るのか。

大学：第1回は顔合わせをただけで、今は必死に勉強している段階。

委員：評価・将来構想委員会と理事長と学長の分離、経営審議会や教育研究審議会の活性化はリンクするところなのか。

大学：教育研究審議会はそのそれぞれの学科長・学生部長・理事などのいわゆる役職者だけで考える会議で、評価・将来構想委員会は学科長・副学科長・各センター長・委員長など主要な組織のトップが一堂に会して考える委員会であり、そこで本学のPDCAを考える仕組みになっている。また、何かあれば評価将来構想委員会で議決すれば大学を動かしやすいところがあるので、大学の実務を考えると評価将来構想委員会が機能している。

V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 外部資金の獲得

委員：外部資金の獲得の件数については、どのように評価すれば良いか。

大学：決して活発とは言えないが、小さな規模の大学としては平均的。

委員：昨年度より件数で言えば5件減っているか。

大学：コロナの影響で研究が延長している課題が多くあり、継続課題は多いが、持っていると呼募ができないためそれが影響していると思う。

委員：全国的に件数は減ってきているのか。

大学：申請数が多いため、新規採択を3割、4割取れる大学はそれほどないと思う。昔は寄附金があったが、どこの大学も寄附金が減っているため科学研究費をより多く申請するため厳しくなっている。中間報告35ページ、36ページに過去の実績をのせている。

VII その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

2 危機管理及び安全管理

委員：災害時の対応マニュアルの学生への周知徹底はどのようにしているか。

大学：学生への周知まではできていないが、学生課で鋭意作成中。緊急時には、学生への専用のシステムを通じて安否確認を行っている。

委員：避難訓練には、当日出席している人はほぼ参加していると考えてよいか。

大学：約半分以下になるが、実習に行っている学生や4年生は授業を履修していないなど学校に来ていない状況があり、このような人数になっている。

VIII 予算、収支計画及び資金計画

委員：これまでは減価償却に応じて資産見返負債を取り崩して行って、減価償却費のマイナスと資産見返負債を相殺するような形になっていたと思うが、減価償却は一気に取り崩したわけではなく、これまで通り淡々とおこなうことになるのか。

大学：そのとおり。ただ、今年度に関してはかなり減価償却費が下がっていたため、マイナスが出てきている。

委員：今後は物を買って、受け入れたものはすぐ収益化することになるか。

大学：そのとおり。昨年度の会計基準で損益計算書を計算すると、こちらでは6憶になっているが、実際2、200万円程度の黒字になっている。

委員：ほぼ問題ない。

XⅢ 新見市地方独立行政法人法施行規則（平成20年新見市規則第16号）で定める事項

委員：勤怠管理・経費精算システムは誰を対象としたシステムか。

大学：勤怠管理・経費精算システムともに教職員全員。市役所の職員は市役所のシステムを使う。

委員：効果があがっているか。

大学：あがっている。特に旅費はエクセルで1つ1つ入力していたものをシステムで入れる形になったためかなりスムーズになった。勤怠管理についても同様に手計算だったものが、システム化により一発で出てくるようになった。

【第3期中期目標期間中間評価に係る実績】

I 教育・研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育

1) 教育の内容

委員：四大化になる前と後では数値や内容など変わってくるのか。

大学：全学科完全四大化して、数値や資格の取り方など少し変わってくると思う。資格を取らない、いらないという学生への対応の仕方がこれからの課題だと思っている。短大の時は卒業生の98%が保育・看護・福祉の職に就いていたが、四大化すると保育でも行政の保育に行くなど、進路の幅が広がってきている。特に地域福祉学科は、一般企業への就職も多いため、修学キャリア支援センターで一般企業への進路もサポートするようにしている。警察官からの募集もあった。

委員：毎年国家試験合格などの実績が高いことに感心する。

委員：部活やサークルについて、ある程度レベルの高い部活があるのか。

大学：部活の数自体は年々増えており、現在35くらいあり、短大からは1.5倍の数がある。部活についても活発に行われている。実績については、サークルレベルのため体育会系のようにバリバリにスポーツをする印象ではなく、女性が多いため自分たちが楽しむことが目的である。

委員：体力作りやコミュニケーション取る分には十分な数と内容があるか。

大学：毎週末に体育館を借りたり、定期的に週2、3回バレーやバスケットをしたりしている。1人で2つ3つ掛け持ちをしている学生も多い。中には国体に出場するスキー選手もいる。

2) 教育の実施体制

委員：令和3年度に開設した「発達支援センター」の対象年齢はどのあたりか。

大学：基本的には就学前だが、児童・生徒も対象にしている。児童・生徒は学校に行けない子どもが問題になっているためサポートしている。学校や保育施設・医療との連携が必要になっている。

委員：今からこのようなことが増えてきて対応が難しいと思うが、対応できる先生でなくとも職員としてできる人が増えてきたらと思う。

2 研究

1) 研究の内容

委員：自治体が設立している国家資格取得率が高い大学で、ここまでしていたら他の大学から参考で視察にくる大学があるか。また、研究成果の発表で、田舎だからできるということがあるのか。

大学：何校か視察にきた。地域で活動して地域のことを考えながら将来を考える取組みはいろいろな場で評価されていると思う。研究内容も世界的な最新のものではなく、今の実際の地域での課題を取り上げてどのようにするかの研究が主体になってきている。本学の特異性を活かして取り組む課題はたくさんある。

委員：首都圏を除いて少子高齢化が進んでいる新見がモデル地区のようになると思うが、いろいろな研究をしていてこれから来たいという教員は増えているか。

大学：絶対数が増えるかは分からない。かなりの人が、本学が取り組んでいる地域共生社会が将来的に必要な不可欠ということを考えて、共感を持って見守ってくれていると思っている。

委員：学校同士の連携はないか。

大学：中山間地区で人口が2万5、6千人くらいで医療・保健・福祉・介護系に特化した公立大学は日本で唯一である。まち全体をキャンパスとして研究することは他のところではなかなかできないと思う。

2) 研究の実施体制

委員：中期目標の達成に向けた人材確保の体制が整ったと記入されており、四大化し、人材確保が一通りできたと思うが、これからは教員が向こうからくるか。

大学：日本全体で絶対的な人数が不足している分野もあり、苦戦しているところもあるが、なんとか人の繋がりでカバーできている。今後、中で育てていくことも考えながら採用していかないといけない。業績さえあれば良いというわけではなく、人間性・協調性・やる気を教員選考ではチェックできており、これからも重点的に行っていきたい。

3 学生の確保及び支援

1) 学生の確保

委員：学外のアドバイザーがいるのか。

大学：ベネッセの業者とコミュニケーションを取って、高校3年生の模擬試験（6月、9月、10月、11月）の結果を教えてもらい、今年の動向を聞いて把握している。

委員：業者からの通知はどこも入手できると思うが、100%毎回超えているのは最終的な判断を良い人がしていると思うが。

大学：ベネッセの業者が出してくれる本学との併願校の分析も見て、来てくれそうな確実な高校に教員が学校訪問に行くなど強化して、データを見ながら秋の時点から動いて対策しているためなんとか1.0倍以上を維持している。

委員：1番学生数を確保できる方法は何か。

大学：ホームページが1番よく見られている。ベネッセの進学サイトもよく見られている。高校の先生や親からのアドバイスで進路を決定している学生が多いというデータがあるため、本学としては高校まで直に行って高校の進路担当の先生に説明して、高校の先生から生徒に言ってもらう。

委員：2025年度は新見市内の推薦の枠が少し減っていると思うが、学生数が減っているからか。

大学：そのとおり。新見高校の生徒が減っており、志望者も減っているため、入試の形を変えることを考えている。

委員：自習する場所は十分あるか。

大学：新棟を建てるまでは、滞在してゆったり予習・復習できるような場所がなかったが、新棟を建てる段階からそのようなスペースを作ることができて、3号館の3階の看護実習室があったところを撤去して滞在して勉強できる場所を作っている。最近になって文科省が、学校に滞在して勉強できる場所を作りなさいということを指示し始めたため、本学もようやく追いついてきた。

2) 学生に対する支援

委員：大学の無償化の話が出ているが、3人を扶養に入れた段階でないと申請できないということだが、学生の確保が難しいという話が出てきているか。田舎だから生活費や学費が安いだらうというところが1つのメリットであり、プラス国家資格の合格率が高いところがあると思うが、その辺りで危惧していることがあるか。

大学：大阪公立大学や兵庫県立大学が全員に授業料無償化にするなど、公立大学が授業料無償化に向けて動こうとしているため危惧している。800の大学があるうちの300の大学が成績優秀だった場合4年間の授業料を無償化するという枠が設けられているため、そういった大学が増えていくと本学としては不利になる。

委員：十分な蔵書はあるか。足りないところがあるか。

大学：電子図書も入れていて、図書館に関しての不満は出てきていない。検索システムで欲しい図書を見つけている。教科書全部を電子図書にしないのかという意見はある。

委員：地域福祉学科の就職の範囲が広がることで対応が難しいと思う。専門的なところならノウハウを持っていると思うが。

大学：今までも保育士や看護師になるだけの指導しか行っておらず、一般企業が1年早くスタートしている上、ノウハウがないため、外部の人と契約をして、月に何度かきてもらって指導している。

委員：相談実績も年々増えてきているが、スタッフは足りているか。

大学：3名の職員と外部のアドバイザーも1名契約している。企業の公務員対策講座も1年間実施しており、手厚く対応している。

II 社会貢献に関する目標を達成するために取るべき措置

委員：ボランティアをしたら単位の一部になるという話を聞いたがどのような方式にしているのか。

大学：健康保育学科で実地体験実習があり、授業科目として何コマか重ねると単位を認定する。ボランティアではなくボランティア的な活動を通してそれを教育の一環としている。また、新見市内の

保育所やこども園にボランティア（実地体験）に行くなど大学が指定することを行い、ある程度を超えたら単位を認定する。

Ⅲ 地域に開かれた大学づくりに関する目標を達成するためにとるべき措置

委員：地域住民とともに学生主体の地域貢献活動を実施したとあるが、七夕や夏祭りのことか。

大学：そのとおり。

委員：地域共生推進センターの上のビューラウンジはだいが人がくるのか。

大学：学生が多いが、一般の人もくる。地域の人が大学を見学したいと申出がある場合、案内する。先日も西方小学校の子ども達が来て案内をした。

Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織の改善及び効率化

委員：新見市の選挙権を持っている人は半数くらいはいるのか。

大学：全体は承知していないが、約半数程度の400名くらいは新見市に転入していると思われる。子宮頸がんワクチンの無料接種が今年度末までで終了するため、手続きを簡略化するためにも新見市に現住所を移すことを含め周知している。

2 人事の適正化

委員：人員配置について、手薄いところ、強化しないといけないところがあるか。

大学：今年度、事務職の業務量調査に取り掛かっており、それらを踏まえて詳細な人員の採用計画を作っていく予定にしている。

Ⅴ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 自己収入の確保及び増減リスクへの対応

委員：授業料の未納者はコロナの影響で収入が上がらない人が多いのか。

大学：コロナが直接影響しているということは理由には書いていなかった。

委員：今は参加料を取る講座は行っていないのか。

大学：市民公開講座では、4回のシリーズで1,000円程度参加料を取っている。

Ⅵ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に係る目標を達成するためにとるべき措置

1 自己点検及び自己評価

委員：大学教育質保証・評価センターの機関別認証評価で「指摘事項なし」という評価はなかなかないと聞いたが、自己評価3ではなく4で良いということにはならないか。

大学：4年前から準備を進めて、いろいろな改革も行っており、他の大学の良い大学でも1つか2つ指摘がある中で、指摘事項なしの大学は49大学のうち3大学しか取れておらず評価を上げて良いと考える。

委員：評価の時に検討する。

Ⅶ その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備及び活用

委員：コロナの時はWi-Fiのポケットルーターを貸与していたと思うが、今はどうしているか。

大学：希望者に対して、本来3,260円くらいかかるものを月額500円（1月20ギガ）で貸し出している。

委員：LGBTQやジェンダーフリーには将来的にどの辺りまで対応するのか。

大学：当事者と話して、施設の改善と認識を情報共有して、実習施設に対する啓発も行い、1人1人に適切な対応を行っている。

委員：ハードの面を整備しても、ソフトの面である他の学生の理解が得られないと困る。

大学：それが一番大事である。

Ⅷ 予算、収支計画及び資金計画

委員：1. 予算、決算の補助金等収入の計画値と実績値に乖離が大きいところがあるが、計画と違う理由は何か。一般管理費についても令和2年度が計画と実績に乖離がある。

大学：ご指摘のとおり合計額も違うようなので、確認をして訂正がある場合報告する。

■その他

委員：項目別実績報告書の記入について、年度計画に係る実績が計画内容の文言と重複した内容からこのことについてはできました、できませんでしたという実績を書いているが、来年度以降はこの項目についてはこれだけの実績があがりましたと書いた方が読みやすく、評価もしやすい。来年度に関してこのようにしていこうという内容が分かりやすい。実績を簡潔に書いてもらいたい。また、自己評定の説明及び特筆すべき事項について、ここを評価して欲しい、ここが足りなかったため来年への反省、来期への反省ということを記入するよう評価委員会から願います。